

施策事例 ⑦ 教育・文化・スポーツ関連施策

「読書シティ宣言」プロジェクト ～新図書館オープンと読書活動の推進～

自治体情報

山形県村山市

人口 / 27,296人

標準財政規模 / 7,552百万円

担当課 生涯学習課・市立図書館

電話番号 直通 0237-55-2833

実施主体 村山市

関連ホームページ <http://www.shoyo-plaza.jp/library/>

事業期間 平成22年度から

関係施策分類 ①、⑥

予算関連データ

総事業費：6,200千円

名称	所管	金額(千円)
住民生活に光をそそぐ交付金	総務省	5,000
一般財源	-	1,200

施策のポイント

新図書館のオープンをきっかけとして、全国初の「読書シティ」宣言をはじめとする図書館活動・読書活動を積極的に展開した。図書館づくりの段階から様々な事業のプランニングまで、市民との協働で事業を展開してきている。図書館利用者数が約10倍になるなど、図書館の利活用が増加しただけでなく、市内外に「読書推進のまち」をアピールすることができている。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

村山市では、長年、図書館の整備が懸案であった。このような中、平成22年5月に、市の中心市街地に総合文化複合施設「甌葉（しょうよう）プラザ」が完成し、その中核施設として、市立図書館がオープンした。市民による図書館の活用をまちづくりにつなげることが大きな課題であったことから、図書館の構想段階から事業展開に至るまで、市民との協働を心がけ、事業を進めていった。

また、平成22年は「国民読書年」でもあったことから、図書館を核として、生涯学習の盛んなまちにし、そこから市の発展につなげようとした。

2. 取組の具体的内容

子どもからお年寄りまで、市民全体で読書活動を盛んにし、まちを盛り上げようと様々な取組を行っている。

- 【「読書シティむらやま」宣言】…「読書」によって、市民が、言葉や感性、表現力を磨き、創造力を高め、そしてよりよく生きることができ、そんな市を目指すこと。
- 【むらやま読書月間】…10月を読書の取組み強化月間にする。
- 【第1回全国読書川柳コンクール】…読書シティ宣言を対外的にPR（全国初）。
- 【プレママ絵本づくり講座】…生まれてくる赤ちゃんのために母が絵本を手作り、プレゼントする。
- 【はじめの1冊】…新入学児童（小学1年生）に絵本をプレゼントする。
- 【飛躍の1冊】…新中学1年生に本をプレゼントする。
- ほかに、【オリジナル絵本づくり講座】・【図書館サポーター】・【夜の図書館（開館時間延長）】・【移動図書館（車による遠隔地への出前図書館）】など。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

人が成長し、より良い社会へと発展するための基礎として、読書を重視して、自ら率先して生涯学習に励む市民を育てることで、地域の活力の再生を図る。

全国でも初めての「読書シティ」宣言を行うことで、市民の盛り上がり期待でき、また、新図書館や読書に対する関心が高まることを目標とした。

4. 現在までの実績・成果

旧図書館では例年、27,000人程度だった年間利用者が、新図書館になり、昨年度は約147,000人（5.4倍）に増加した。本年度もその勢いはとまらない。市民一人当たりの図書の貸出し冊数も、大きく伸び、県内でも屈指の冊数となっており、それだけ、市民の読書に対する関心も高まった。

また、「読書シティ」宣言の効果は大きく、数多くのマスコミ等でも報道され、視察も数多く訪れている。さらには、読書活動に力を入れる他の自治体でも、この効果に着目し、住民の要望で「宣言」を行う動きなどもみられる。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

全国的にみると、町レベルでは「読書のまちづくり宣言」や「子ども読書のまち宣言」などを行っているところは複数見られたが、市レベルでの宣言はまずなかったことから、全国初の事業や名称を意識し、様々なアイデアが出された。村山市のWEBサイトのドメイン名が、@city.murayamaと表記されており、「シティ」という英語表現が、「しゃれた都会的な感じ」を表現できることから「読書シティ」という表現に結びついた。

6. 今後の課題と展開

今後は「読書シティ」として、より一層のPRに努めるとともに、読書推進につながる全国初の事業の継続と展開により、「読書シティむらやま」のイメージをより定着させるとともに、「読書de創造力」がつくような展開に発展させていきたいと考えている。